

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ハピリなの花		
○保護者評価実施期間	2025年 1月 28日		～ 2025年 2月 14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	12	(回答者数) 12
○従業者評価実施期間	2025年 1月 28日		～ 2025年 2月 14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 14日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	支援プログラムや活動内容が充実している。また、通う児童が様々な活動を行うことを楽しみにしている。	玩具にまかせた療育ではなく、きちんと日々の活動を計画し、1人ひとりの児童の姿を思い浮かべ、療育目的に合わせて支援を行っている。	商業施設での活動など、地域に向く活動も取り入れて行っているが、公共交通機関を利用するような活動も取り入れ、より多くの経験をつむことができるよう支援したい。
2	様々な活動に適した部屋(指導訓練室など)がある。	身支度や軽活動をする部屋、静かな活動をする部屋、体をしっかり動かす部屋、カームダウンスペース、多目的スペース(静養したり、パソコンで調べ物をしたりする場所)を設けている。	リラックスしてくつろぐことができる場所として、静かな活動をする部屋にソファなどの腰掛けがあるといいように思う。
3	積極的に家族との交流を図っている	事業所への送り迎えを家族にお願いしているため、送迎に関わることが家族の出入りがあり、ご家族には当事業所で過ごす児童の様子を見てもらったり、必要に応じて支援や療育の指導も行ったりするよう心掛けている。 家族交流の機会として、懇談会を企画し、行っている。	家族同士の交流が広がるような環境や仕組みもつくっていききたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	学童クラブなどの交流の機会が少ない。	障がいに対する理解が不十分なままに、一緒に活動をしたり、過ごしたりすることは、かえってまる投げになり、トラブルを招いたり、そのトラブルが失敗経験になりかねないため、慎重になっている。	放課後に、学校の校庭へ外向き、その学校の児童の過ごしに寄せてもらうようなかたちで、少しずつ活動範囲を広げていき、相互理解を深めながら、関係を構築することができるような機会をつくっていききたい。また、長期休暇などの期間を利用して、同法人の学童クラブとともに活動するような機会もふやしていきたい。
2	施設の構造的な療育の限界や危険性がある	療育の場に寄せてリフォームは行ったものの、もともと児童が通うためではなく、事務所主体の建物であったため、構造的な限界を感じている。特に、2階の部屋は、出入口付近から階段が始まり、危険を感じている。	2階の部屋のドアは、常時施錠し、児童が飛び出さないように配慮している。体格によっては開錠できる児童もいるため、開錠することによる本児を含む多くの児童の危険を招く恐れがあることを説明している。それでも開錠してしまう児童がいる場合は、鍵の仕組みを調整する必要があるかもしれない。
3	立地的な災害のリスクがある	南側には川があり、北側には山があり、洪水浸水想定区域や土砂災害警戒区域に含まれている。	様々な災害を想定し、それぞれの状況に応じたマニュアルを作成している。定期的な避難方法の確認や、避難訓練も行っている。マニュアルについては、指導訓練室に常設し、送迎で出入りする保護者様にも手にとってみてもらえるようにしている。しかしこのことが十分に周知されていないことが今回の評価で分かったため、定期的お知らせしていきたい。